

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度 (評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立高島小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・前年度も学校教育目標に「学ぶ楽しさの追求」を掲げ、本校の重点目標である①職員の資質向上②基礎学力の定着③教育環境の充実 をもとに評価項目、取組内容、成果指標について検討を行い取組を進めた。すべての項目について最終評価、学校関係者評価とも「十分達成できている」との達成度であり、総合評価も「A:十分達成できている」である。</p> <p>・今年度より本校では島留学制度がはじまり、福岡県より4名の児童を置け入れている。児童数が増えることで、児童の実態・特質に応じた指導の工夫やコミュニケーション能力を育てる指導の工夫について取組む必要がある。</p> <p>・GIGAスクール構想が前倒しで実施されることが決まったことで、今年度はICT環境の更なる充実が進むと考えられる。職員の研修を進め、児童の活用が円滑に進むよう計画し取組んでいきたい。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	学ぶ楽しさの追求
----------	----------

3 本年度の重点目標	<p>1 サービラーニング (SL) の推進</p> <p>2 活学力の育成</p> <p>3 教育環境の効果的な利用</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教師間でマイプランを共有するとともに、校内研修で取り組んだり、学期ごとに内容の情報交換を行う。	A	・マイプランの実施状況は、「できている」「大体できている」で100%。どの学級も確実に取り組んでいた。 ・担任が不在の時でも、自分たちで学習の準備をしておくことができるようになってきている。	A	・不登校対策支援特認児童もいる中で学力向上は、難しいこともあるだろう。
	○活学力の育成	○朝のスキルタイム90%以上実施。	・読んだり書いたりする活動で条件をつけることで、速読や条件に合わせた作文が書けるようになる。 ・算数の活用問題を1学期間に2回以上実施する。	A	・条件をつけた問題や算数の活用問題を取り入れ、児童一人一人に応じた指導を心掛けることができた。 ・総合的な学習の時間の中で、教科等の学びの活用の推進を図った。	A	・地域を活用した学習が多く見られた。地域の人材をもっと活用してほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学期に1回、人権・同和教育の視点で道徳教育に取り組む。 ○学期に1回、「心のアンケート」を実施して肯定的な回答の児童を80%以上にする。	・人権・同和教育の参考資料を基にして、各学年で指導を行う。 ・心のアンケートの中で自分が頑張っている事やできるようになった事を記述する欄を設ける。 ・保護者や地域の方々と連携した体験活動を実施する。	A	・心のアンケートを毎月実施し、ほとんどの児童が肯定的な回答をした。また、普段は見えない児童の心情や回答を得て、個々の対応に生かすことができた。 ・人権同和教育の視点からの道徳教育を実施し、児童の学校生活に対する考え方が肯定的になるよう取り組んだ。 ・保護者や地域の方々の協力を得ながら、総合的な学習の時間等で体験活動を行ってきた。そのことで、思いやりや社会性が身につけてきた。	A	・島留学児童や島外からの児童もいるので、特に心の教育には気を配ってほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学活の時間を活用して担任と児童の個人面談を行い、気になることや悩み等を聞く。	・児童から得た情報を基に、月1回の児童支援委員会等で情報共有を行い、全職員で問題解決を図る。	A	・児童支援委員会を月に1回実施し、児童の近況について共通理解した。 ・心のアンケートの自由記入欄を参考に個人面談を行い、気になることを聞き取って解決につなげた。	A	・学校はいじめ防止に頑張っていると思う。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 ①運動習慣 ②食習慣 ③病気・ケガの予防	●積極的に体を動かそうとしている児童を80%以上にする。 ●「健康に食事は大切である」と考える児童70%以上 ○自分の身体に関心を持ち、健康を維持しているような知識を身につけさせる。	・週に1度は20分休みに、ジョギングや縄跳び等の運動に取り組む時間を設け、全校で体づくりに取り組む。 ・週に1度は全校レクの時間を設け、体を動かして遊ぶ楽しさを実感できるようにする。 ・食に関する意識調査の実施(栄養のバランス)給食時間のミニ指導(好き嫌い、旬の食べ物、栄養、マナーほか)、給食だよりの発行 ・学期に一度の発育測定。学校三師による保健指導。保健だよりの発行。	A	・児童用アンケートの結果「進んで体を動かしている」の項目に「そう思う」「だいたい思う」と答えた児童が80%以上であった。 ・持久走大会に向けて、毎週水曜日の業間体育の時間に、ジョギングを続けることができた。 ・毎週金曜日の全校レクでは、3学期から5年生がリーダーを引き継ぎ、職員と児童と一緒に楽しく体を動かすことができた。金曜日以外の休み時間も、進んで体を動かして遊んでいる児童が多い。 ・アンケートの結果、「好き嫌いをしないでバランスよく食べることが大切だ」と考える児童が「そう思う」「だいたい思う」が100%だった。 ・学校三師による保健指導を3回実施することができた。 ・アンケートの結果、感染症予防ができていない児童は80%以上であった。	A	・コロナ禍感染防止によく配慮されていた。 ・児童の手洗い、消毒、マスク着用、黙食は定着している。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・船便変更日以外定時退勤を遵守する。	A	・時間外勤務はできないので、限られた時間を有効に使うよう工夫している。 ・校務分掌の効率化を目指している。	A

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
◎志を高める教育	○地域の未来について考え、課題解決に取り組む児童の育成	○年間5回以上、地域の人達と共に体験活動や地域と関連した行事に取り組む。	・体験活動や地域と連携した行事と教科等を関連させ、地域へ貢献できる機会を設定する。 ・地域のひと・こと・ものに触れさせることで、これからの自分にできることを考えさせていく。	A	・アンケート「高島のいいところを知り、もっとよくなりたいと考えている」「そう思う」「大体思う」で100%だった。 ・今年度は高島をPRする活動を5回以上仕組み、地域に働きかけたことで、児童自身が高島の問題点や良さを実感できた。よりよくなることを考え実践したことで、これからの地域をよりよくなるための考え方が身についた。	A	・自信をもち、視野を広げ、社会性のある子供を育ててほしい。
○教育環境の効果的な利用	○すべての教育活動での宝当プラン(ICT活用教育計画)の推進	○週に一回以上、タブレット等のICT機器を利用する児童を70%以上にする。	・授業の中で、週に1度はICT機器を活用できるようにし、児童がICT機器に親しみ、そのよさを実感できるようにする。 ・ICT機器の活用法を共有できるよう、年に1度職員研修を行う。	A	・児童用のアンケートの結果、「週に一回以上授業でパソコンやタブレットを使っている」の項目で「そう思う」「だいたい思う」と答えた児童が70%以上であった。 ・テレビ会議機能に慣れさせ、家庭と学校をつないだりリモート学習にも対応できるようにした。	A	・コロナ禍や自然災害に備えて、オンライン授業の実施ができるようにしてほしい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・すべての項目について、最終評価、学校関係者評価とも「A:十分達成できている」との達成度(評価)であった。島留学児童並びに不登校児童の保護者から、本校の指導・対応について感謝の意が寄せられた。</p> <p>・教室で学んだことを地域に貢献する活動として活用する「サービラーニング」を推進することができた。次年度に向けて、教科等横断的な視点からカリキュラムを見直し、さらなる活学力の育成を図る。</p> <p>・コロナ禍にあっても、地域の方々の協力で多くの体験活動を実施することができた。今後も「地域とともにある学校」を目指し、高島ならではの特色ある学校づくりを進めていく。</p>
----------------	---